

# **第5回地区庶務担当理事連絡協議会**

と き 平成26年9月24日（水）午後2時30分

## **△森会長挨拶**

森府医会長は、新たな財政支援制度（基金）について、京都府内部の調整が進んできており、地区医からの事業計画を実現するために、一層の取り組みをしていかなければならないと意欲を示した上で、これまで以上に地区医が参加し、支援制度を運用して地域医療を再構築していく必要があるとの考えを示した。併せて、それぞれの地域での連携が一層必要になると示し、多くの医師に地域医療への参加を促していただきたいとして、協力を求めた。

## **△報告ならびに協議事項**

### **1. 8.16からの大雨による医療機関の被害状況について（濱島理事）**

9月16日時点で9地区44医療機関から被害状況の連絡を受けていると報告。診療施設の浸水、カルテや機器の被害、雨漏り、土砂等による敷地内の被害等があったことを示し、規定に則りその被害状況に合わせて見舞金をお渡ししたことを報告した。

### **2. 近医連定時委員総会(9.14)の状況について（担当理事）**

#### **第1分科会（古家理事）、第2分科会（関理事）、第3分科会（小野理事）**

第1分科会「医療保険」、第2分科会「地域医療」、第3分科会「医療安全」について、各担当理事からそれぞれ報告。（詳細については京都医報平成26年10月15日号(No. 2039)参照）

### **3. 麻薬免許の一斉更新について（三木理事）**

麻薬免許の更新申請（25・26年有効の免許保持者）と受払数量届の提出の時期であることを報告し、必ず期限までに提出していただくよう周知を依頼した。特に、免許が失効した場合、麻薬の取扱いはもとより、在庫の所有についても麻薬及び向精神薬取締法違反として厳重に罰せられることを説明し、申請忘れには十分留意されるよう呼びかけた。

また、更更新手続、麻薬の在庫の有無にかかわらず、数量届の提出は必須のため、会員への周知徹底を求めた。（京都医報平成26年9月15日号(No. 2037)付録参照）

### **4. 最近の中央情勢について（城守理事）**

平成26年7月下旬から平成26年9月中旬にかけての社会・医療保険状況について、地域医療ビジョンや消費税増税問題の話題を中心に説明した。

### **5. セアカゴケグモ抗毒素について（藤田理事）**

日本各地に生息地域を広げているセアカゴケグモの抗毒素について、現在国内で保有されているものの有効期限が平成26年8月末までであると報告。厚労科学研究班において平成27年8月末までの抗毒素を保管していることを紹介し、必要に応じて遠隔処方が出来ると説明した。

### **6. デング熱への対応について（藤田理事）**

デング熱は例年200名程度の海外旅行者が発症しているが、今回初めて国内発生し騒動になったと説明。10月になればヒトスジシマカの活動が終息すると示しつつも、デング熱の患者が

出た場合には、 Dengue熱診療ガイドライン、地方公共団体向け手引き等を参考に診療をしていた  
ただき、対応に困った場合には京都市立病院感染症科等に照会していただきたいとした。

## **7. <京都府栄養士会>平成 26 年度在宅栄養・食事ケアサポートに関するニーズ調査の 実施について（関理事）**

平成 26 年度栄養ケア活動支援整備事業（厚労省補助事業）として標記調査を実施することを  
報告。対象は「在宅療養支援診療所」の届出をしている医療機関の管理者であるとして、協力  
を依頼した。

北川府医副会長は、在宅での栄養指導を重要視し、病院から退院される方など、ケアマネジ  
ャー、訪問看護師が関わるケースで、栄養士が在宅での栄養指導を行う事業を同時に行うこと  
を報告。主治医も関わりを持つ可能性があるため、その場合には栄養士会から十分説明するよ  
う申し入れていることを示し、地区医で問題点、課題等あればお知らせいただくよう依頼した。

## **8. ポータルサイト「きょうと認知症あんしんナビ」に掲載する**

### **「認知症の診療・診察が可能な医師」の推薦について（関理事）**

「きょうと認知症あんしんナビ」の具体的な画面のイメージを示した上で、適任者について  
地区医での選考を依頼。後日改めて案内することを報告し、検討と推薦を依頼した。

## **9. 平成 26 年度京都市内地区在宅医療担当理事連絡協議会の開催について（関理事）**

標記協議会を 10 月 9 日（木）に府医会館で開催することを報告。新たな地域ケア会議の実施  
体系等について、説明を兼ねて行いたいとして、各地区担当理事の参加を呼び掛けた。

## **10. 第 40 回京都医学会の開催について（小野理事）**

9 月 28 日（日）に「第 40 回京都医学会」を開催することを紹介。来春の「第 29 回日本医学  
会総会 2015 関西」のプレイベントであるということを踏まえ、医学会総会の井村裕夫会頭によ  
る特別講演ならびに高齢者の終末期医療についてのシンポジウムを企画していると報告し、多数  
の参加を呼び掛けた。

## **11. 学術講演会の今後の予定について（小野理事）**

10 月に予定している京都府医師会学術講演会を紹介し多数の参加を呼びかけた。

## **12. 第 29 回日本医学会総会 2015 関西事前登録の協力について（小野理事）**

来春の日本医学会総会について、事前参加登録の現況を報告。日本医学会総会事務局では事前  
登録 3 万人を目標に掲げているが、現在の所 20%に満たない厳しい状況であるとして、更なる事  
前登録を依頼するとともに、WEB 登録が困難な高齢の会員については地区医事務所でまとめて登  
録するなどの配慮も考慮していただきたいとして、協力を呼び掛けた。

また、松井府医副会長は京都での開催が 24 年ぶり、日本医学会総会自体も前回の東京開催分  
が東日本大震災の影響で中止になったことから実質上 8 年ぶりとなることを紹介。さらに、日本  
医学会の法人化の動きを示し、今後も日本医学会が日医と共に活動を続けていくためにも、今回  
の日本医学会総会を多くの方の参加で盛り上げ、成功させなければならないとの考えを示した。  
併せて、全国に登録委員が回り事前登録を呼び掛けていることを報告。御膝元の京都が少ないと  
会自体が盛り上がらないとして、理解と協力を求めた。

森府医会長は、テーマについて医療制度の問題、在宅医療等地域医療の問題、医療安全の問題等、多岐にわたっており、学術的な問題のみならず日常診療の中で遭遇するような案件を取り扱っていると報告。各地区医の理事には特にご参加いただくよう、重ねて協力を呼びかけた。